

## 第4分野 科学技術・学術における男女共同参画の推進

### I. 評価点

p.38の【基本認識】の3段落目に、「現在、研究職・技術職に占める女性の割合は増加傾向にあるものの、日本は16.6%と諸外国と比較して低水準にとどまっている。研究者の前段階となる大学・大学院生における専攻分野別の女性比率を比較すると、理工系学部が低い。研究職・技術職は、職業人としての専門性を身に付けキャリアアップにつながる職種であり、女性のさらなる参画拡大が望まれる。そのためには、分野ごと、地域ごとの課題を精査し、実効性のある対策実施を促進する必要がある。」とあります。理工系学部における段階別の女性の参画状況を細かく見ている点は高く評価します。

### II. 課題

p.42の4(2)ア「次代を担う理工系女性人材の育成」に関して、女性の進路決定に大きく影響を及ぼすであろうアンコンシャス・バイアスに対する取り組みについても、言及が必要です。また、理工系分野でも女性をどのように「人材」として活用していくか、という視点に終始していると感じます。女性が理工系分野に進むという自己実現のための政府の方策を講じるよう要望します。

### III. 要望

p.40の2(2)①「性差を考慮した研究・技術開発を実施することにより、男女の心身の違いやニーズに応じた研究成果を社会へ還元する取組を促す。」に見られるように、第4分野を通して、性差という用語に関して「社会的性差」と「生物学的性差」の両方の意味を混同して使用しています。同分野で、「ジェンダーの視点を踏まえた研究・技術開発の促進」という意味で「性差」という用語を使用する際は、意味の混同を防ぐため、「生物学的性差」という表現への統一を求めます。